



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

**20,000名以上の
学生・教職員の
自由闊達な教育と研究活動を
安全に支える
カスペルスキーのセキュリティ**

kaspersky

BRING ON
THE FUTURE

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学

既存のセキュリティソリューションの更新期限に伴い、カスペルスキーの導入を決定。短期間で構築し、スムーズな移行を実現



- ・ 創設 1939年
- ・ 所在地 愛知県名古屋市
- ・ 導入製品・サービス
Kaspersky Endpoint Security for Business Select
Kaspersky Security for Mail Server
Kaspersky Maintenance Service Agreement Plus



「検知性能への継続的な取り組みによりエンドポイントセキュリティのさらなる安全性向上を期待しています」

情報連携推進本部
情報セキュリティ室
助教 博士 (情報科学)
長谷川 皓一 氏

名古屋大学は、東海国立大学機構が運営する総合大学。「創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す」、「自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」という教育と研究の基本目標を掲げ、その実現に向けて日々活動を行っています。その名古屋大学が、エンドポイントと電子メールのセキュリティを守るために導入したのがカスペルスキーのソリューションでした。

名古屋大学では、研究用や学生用に提供している教育端末のほか、教員や事務職員が使っている端末のセキュリティを確保するため、エンドポイントセキュリティを導入しています。さらに、マルウェア感染の経路となることが多い電子メール用に、メールセキュリティを採用しています。

課題

「教員、学生の自由闊達な研究を支援するため、名古屋大学では充実した情報基盤を提供しています。しかしその一方で、セキュリティ確保は重要な課題です。厳しすぎる制限など、やり方次第では、情報基盤を自由に使うことができなくなるため、研究の障壁になりかねません。」と長谷川皓一博士は語ります。

そこで名古屋大学では、セキュリティを確保しながら自由に情報基盤を使ってもらえるように、「利用者自身がきちんと情報やセキュリティに対する理解を持ち、使用する端末に対して責任を持って行動するための教育や啓蒙活動を徹底して行い、各自がセキュリティ意識を持って活動を行っています。」(長谷川氏)とのこと。

その上で、セキュリティ対策としてネットワークを監視、不審通信の遮断など、ネットワーク面でのセキュリティを強化するなどの対策を実施。エンドポイント/メールゲートウェイ/ネットワークのそれぞれにセキュリティソリューションを導入することで、利用者がネットワークや端末を自由に使いつつ、セキュリティも確保することに成功していました。

しかし、既存のセキュリティソリューションの使用に関して課題が出てきました。

「既存ツールの契約更新が難しい状況となってしまう、継続的に運用していくことが困難になったのです。そこでリプレイスを実施することになりました」と係長の山田英治氏は話します。

リプレイスを行う際、既存システムと新規システムを一定期間平行稼働させ移行していくケースが見られます。しかし、今回のリプレイス作業においては、短期間で検討から本番稼働まで実現しなければなりませんでした。

長谷川氏は、「新しいツールを選定する際、条件にはさまざまなものがありました。数万を超えるアカウント数でも問題なく稼働することはもちろん、機能面、コストに加え、ツールやベ



Kaspersky Endpoint Security for Business Select

次世代型防御テクノロジーを搭載し高度なサイバー脅威から保護するエンドポイントセキュリティ製品



Kaspersky Security for Mail Server

メールを経由したマルウェア感染やスパムメールをブロックするメールセキュリティ製品



Kaspersky Maintenance Service Agreement Plus

重大なインシデントに優先的に対応するプレミアムサポートサービス

ンダーの信頼性も重要なポイントです。いくつかのツールが候補に挙がりましたが、最終的にはKaspersky Endpoint Security for Business SelectとKaspersky Security for Mail Serverの導入を決定しました。これまでのセキュリティレベルを確保しつつ、遅滞なく計画通りに導入する必要があります。そのため、導入前には疑問点や技術的な点など細かく質問をし、不安を払拭する作業が必要。カスペルスキーは、セールス担当の他にエンジニアも加わり、しっかりとした説明を受けることができました。これなら安心して導入できると感じました」と続けます。

カスペルスキーのソリューション

Kaspersky Endpoint Security for Business Selectは、ふるまい検知、脆弱性攻撃ブロックなど多層からなる防御テクノロジーで未知の脅威からも保護し、アプリケーション、デバイス、Webアクセスの制御やIT資産管理機能も備えた、総合エンドポイントセキュリティ。WindowsやMac、Linuxなどに対応しています。

Kaspersky Security for Mail Serverは、電子メール経由でのマルウェア感染を防止するためのメールセキュリティ。スパムメール対策、フィッシング対策やコンテンツフィルタリングも可能です。

長谷川氏は、「時間がない中、スピード感を持ってシステムを構築しました。特にメールセキュリティの構築ではカスペルスキーの支援により、短期間での構築・稼働が実現できました」と話します。

その結果、既存のセキュリティベンダーの契約期限が終了すると同時に、カスペルスキーへの切り替えが完了しました。

懸念事項であった利用者の切り替えもスムーズに進みました。

「契約が切れた状態で以前のエンドポイントセキュリティツールを使ってしまうと、コンプライアンスの問題が生じます。そのため、短い期間でなんとか切り替えを実施できるようユーザーに働きかけをしました」(山田氏)

旧エンドポイントセキュリティツールの管理サーバーにアクセスしてきた端末を管理しているユーザーに通知する、再三に亘ってアナウンスを実施するなど認知を徹底した結果、旧ツ



「限られた人員リソースで旧ツールからの移行をスムーズに行うことができました」

情報推進部情報推進課
情報セキュリティ係
係長

山田 英治 氏

ールの契約期限が切れる前に端末の移行が完了したのです。その際にもカスペルスキーが役に立ちました。

「カスペルスキーには、インストール時に以前のセキュリティツールを削除する機能があります。この機能を使うことでユーザーの負担を最小限にしつつ、確実な移行ができました」(山田氏)

さらに、カスペルスキーに変更したことで思わぬメリットもありました。それはKaspersky Security for Linux Mail Serverの動作が軽く、サーバースペックを落とすことができたこと。その結果、サーバーの負荷低減に繋がっています。

もうひとつ、以前のメールセキュリティはアプライアンスだったため、ある意味ブラックボックスだったという問題がありました。カスペルスキーはユーティリティコマンドが充実しており、連携システム(設定同期、システム全体の統計値の取得、バックアップ等)の開発がしやすく、運用改善に役立ちました。

展望

現在、東海国立大学機構は名古屋大学と岐阜大学の2つの大学を運営しています。今後、無駄な調達を減らすため、現在は個々の大学で実施している調達を統合していくことが検討されています。

「ネットワークや情報環境はそれぞれの大学の独自性を考慮する必要があるため、統合は難しいかもしれません。しかし、EDR(Endpoint Detection and Response)などの導入を検討する可能性があります。その際にも、機能面やコスト、実績、信頼性は大きなポイントになるでしょう」と長谷川氏は話します。

また、カスペルスキーへの期待も大きいと言います。

「今後、運用していく中で細かく調整し、さらなる安全性向上を図りたいと考えています。そのため、カスペルスキーの支援・サポートはとても重要になっています。現在、対処中の問題もありますが、これらも解決していきより安定的な稼働を目指したいと考えています」と長谷川氏。

名古屋大学は、機能面だけではなく、サポートや信頼性についてもカスペルスキーに期待しています。

サイバー脅威ニュース：www.securelist.com
ITセキュリティニュース：blog.kaspersky.co.jp

www.kaspersky.co.jp

kaspersky

BRING ON
THE FUTURE

株式会社カスペルスキー

〒101-0021
東京都千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル 7F

©2021 AO KASPERSKY LAB. ALL RIGHTS RESERVED.
登録商標およびサービスマークはそれぞれの所有者に帰属します。